

教育に想う

関ヶ原町長

西脇 康世 氏



教育随想



平成26年11月1日

11月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
関ヶ原町長	
西脇 康世氏	
この人に聞く	2
フリーランス・ジャーナリスト	
浅井久仁臣氏	
羅針盤	2
図工・美術科指導員	
赤崎 類子	
ふれあい	3
六名小	
神谷 尚希	
特集	4
～子供たちの未来のために～	
ユネスコスクール取組	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
体力づくり	
(昭和56年)	
この本を	8

徳川家康公が誕生された岡崎市と天下分け目の関ヶ原の戦いを制し徳川幕府誕生のきっかけとなった関ヶ原町がゆかりのまち提携をしてから三十年が過ぎ、交流の輪が着実に膨らんできている。昨年は、ゆかりのまちを御縁として、災害時相互援助協定が茅ヶ崎市、佐久市を含めた四市町で提携することができ、大きな安心感を覚えたものだ。

一学期が終わったところに、老朽化と耐震問題から改築を進めていた関ヶ原中学校の新校舎の建物が完成し、夏休み中に引っ越しを行った。その後旧校舎の解体工事と外構整備工事を継続して行っている。年明けには竣工式ができる予定であるが、生徒たちには落ち着かないことであろうと申し訳なく思っている。学校の施設としては珍しい免震構造を採用した建物



で、太陽光パネルを設け、LED照明を採用したなど省エネにも配慮している。また、廊下の腰壁には地元は今須杉を貼り、建具も木調とした温かい感じで、すばらしい環境が整うことになる。本町も子供の数が減ってきているが、新しい学舎において、お互いに切磋琢磨し、仲間との絆をより濃密に培い、引き継いできた伝統を大切にしながらも、校舎とともに新たな発展を期待したいと思っている。

日本人の道徳的行動は世界から見れば奇異に感じられるようだ。先般のサッカーワールドカップの会場に

おいて試合後に清掃を行ったことや、東日本大震災が発生したときの民衆が秩序を乱すことなく行動したところなどは、日本の風土によるところもあるが、道徳教育による成果であると思ってい

る。こういった人間教育を大切にしながら、子供たちが、次世代を担う者としての基礎をしっかりと固めていってほしいと願っている。

終わりにあたり、ゆかりのまちとして友好の輪が益々大きく発展することを祈念し、私の教育随想とします。

(にしわき やすよ)

人に聞く



本質を譲らない

フリーランス・ジャーナリスト
浅井久仁臣 氏

いくつもの肩書きを持ち、精力的に活動する浅井さん。明るく柔らかな語り口からは想像できないが、本業は紛争地帯にも何度も赴き、真実を伝えてきたジャーナリストだ。

「小さいときから新聞記者を目指していました。職業軍人だった親父は、村で英雄視されていました。一歳の頃、親父は腸結核で他界しましたが、復員兵が集まっては親父の話をしていました。そこへ行って話を聞くと、遠因は戦争だと思ってしまうくらい。戦争をなくす仕事は何かとそんな人たちに聞いたところ、新聞記者だと言われたので、新聞記者になることを決めました。」

五歳から、浅井さんは新聞記者になるべく努力を始める。小学二年生から新聞を読み始め、中学入学前からは、市内に住む外国人宣教師について、英語のレッスンを受けた。

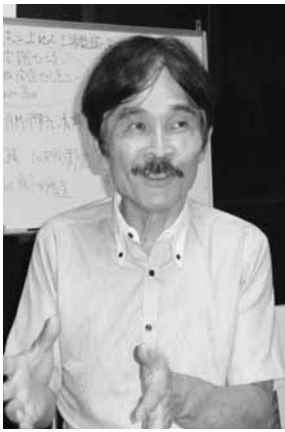
さらに、様々な戦争の本との出会いが、記者への思いを固めさせた。「戦争犯罪について知ったことで、父親の英雄像が崩れ、物事の見方が変わりました。そして、戦争に関してより自由に意見を伝えるために、フリーランスを目指しました。」

東京で大学やマスコミ塾へ入るが、その方向性が目指すものとは違っていると、すぐに別の道を模索した。しかし、そこで出会った著名人との縁や力添えにより、念願の記者生活を英国からスタートすることができた。

TBS初の契約特派員になって、テレビにも出演した。そしてテレビ局の記者以外の人間が自ら取材し、自ら解説する報道スタイルを、日本で初めて確立した。すると、局員の中には、「浅井さんはいいよね。趣味で仕事して、好きなときにあれやりたいって局に来てさ。俺たちなんか、ようやく企画が通って、年に一、二回海外取材に行けるくらいなのに」と、嫌味を言う人もいたそうだ。

「僕には彼らの常識にあてはまらないところがあつた。しかし、正しい頑固さならば後から認められます。自分が本質と認めているものは譲らないようにしています。」

今、浅井さんは、マスメディアと距離を置いている。



「僕は、世界的スクープを撮ったのに、認められなかったのですよ。教科書にも載っているサラエボのロミオとジュリエットをご存じですか。セルビア人青年とイスラム女性の恋人同士が、セルビア軍から逃れようとして射殺された事件です。日本のテレビ局から映像はいらないと言われまして。翌朝、同行していたアメリカ人ジャーナリストが撮ったその写真がアメリカの一流新聞の一面に掲載されました。そのすぐ後、テレビ局から連絡が来ましたが、映像は送りませんでした。欧米のメディアに追いつく姿勢が嫌いなのですよ。」

また、イギリスで撮った別のスクープ写真では、支局長から他の特派員が撮ったことになってほしいと頼まれました。本質が潰されているのです。」

ジャーナリストという立場で物事の裏表を見てきた人間として、情報を仕入れ、分析し精査する能力、そして発信する能力（リテラシー）の観点から、今、浅井さんは教育にも深く関心を寄せている。

「今のメディアは、リテラシーを働かせていません。それに気づいてもほしい。与えられた情報の選択肢は多いほどいい。そこから、本質を見極め、自分の論を作って発信してほしいのです。そしてもう一つ、教育に期待しています。郷土の歴史をもっと深く学び、教養にし、新しい岡崎を作ってほしいと思います。」

浅井さんは今日も、SNSを通じ、世界へメッセージを発信している。

氏名 あさい くにおみ
生年月日 昭和二十二年九月十七日
住所 岡崎市保久町

羅針盤

子供の力を伸ばす

鑑賞の授業

図工・美術科指導員

赤崎 類子

図工・美術科で育成する感性は、授業の中で、今まで気付かなかった新たな見方や感じ方を体験したり、豊かに感じ取る喜びを味わったりして育まれていくものである。近年、美術作品を見て考える力をつけると、子供の学力や社会的なスキルが向上するというハーバード大学の研究が報告され、自らの価値観で鑑賞する方法が注目されるようになった。

A先生は、自分自身が魅了されたシャガールの絵画「エツフェル塔の新郎新婦」を子供たちに出会わせた。シャガール独特の不思議な空間に、子供たちを惹き込んだ瞬間、「この絵には何が描いてあるのだろう」と、問い掛ける。子供たちは、見たままを自分なりの言葉で表現していく。ひとしきり、画面の一部分について注目する意見が続いた。A先生は、



リーダーとしての壁

六名小 神谷 尚希

A子は、五年生のときから学級代表を務め、行動力にあふれ、他の児童からの信頼も厚い子であった。しかし、自分ひとりで動きすぎて、周りを振り回してしまう面があり、気がかりであった。

六年生に進級した四月に行われたあいさつ運動でもその傾向が見られた。A子に「本当のリーダーってなんだろう」と投げかけてみた。しかし、そのときのA子は困惑した表情のまま、答えはなかった。

そんな折、学級代表であるA子を含む、四人の子たちが、

「先生、世界で困っている子のために募金がしたいです。」
 と言ってきた。前年度の六年生が、フィリピンへの募金を行っていたときから考えていたらしい。そこで、四人が中心となり、南アフリカへの募金をしたという意見を学級に提案した。

募金の提案は、学級全員の賛成を受けた。A子が級友の意見をまとめ

ながら、募金活動の準備を進めた。A子は、募金箱やポスター作りに協力してくれる子を朝の会で募るなど、積極的に取り組んだ。

募金活動当日、担当者が各学級を回り、活動は順調に進んでいるように思えた。しかし、A子と共に提案した三人の顔つきがさえない。そこで、どうしたのかたずねた。

「先生、A子さんが、勝手に担当を決めてしまって、私たちは仕事がありません。」

と訴えた。A子呼んで事情を聞くと、

「係は、私が適当に決めました。」
 と言った。募金活動の中心を担っているとは自負している三人にとっては、自分たちに相談なしに決められ、事が進んでいくのは面白くなかった。

私はリーダーとして大切なことを気づいてほしいと思い、

「A子の行動に納得していない子がいる。今のままのA子では、みんなはついてこないよ。リーダーシップとは何かよく考えてほしい。」

と伝え、青少年赤十字の理念や活動の書かれた資料を渡した。A子は、自分の至らない点に気づいたのか、一生懸命やっているのに認めてもらえず悔しかったのか、下を向いて涙を流した。今まで多くの子から信頼され、活躍してきたA子にとっては、初めての「リーダーとしての壁」であったのかもしれない。

数日後、A子は不満をもっているのが、仲良しの三人であることに気づいた。A子は、三人だけでなく、周りの子たちにも丁寧な話を聞き、全員がやる気をもって活動していけるように、仕事を分担した。そして、三人と一緒に明るく、大きな声で呼びかけることができた。

募金活動が大成りに終わったあと、A子は変わってきた。清掃を活性化して教室をきれいにしようと、自分からみんなに働きかけた。そして、相談しながら、共に行う姿が見られるようになった。私はA子に改めて、「リーダーとして必要なことはなんだと思った。」

と聞いてみた。A子は

「周りをよく見て行動すること、思いやりの心をもつことです。」
 と明るく答えた。

これからも学級・学校のリーダーとして頑張るA子をしっかり支えていきたいと思う。



「なるほど」「確かに」と共感しながら、子供の意見を笑顔で受け止め、思いを尊重していく。そんな先生の姿に安心した子供たちは、次に自由な見方や感じ方で、作品のイメージを膨らませ、自分の思いを語り合っていく。「エッフェル塔を青くして、周りになじませている」というB男の意見に、「エッフェル塔は青じゃないといけないのかな」と問い返す。すると、「信号機も、青は安全の色。幸せな結婚を表したくて、青っぽくしたんだ」とB男は幻想的で、癒しをもたらしシャガールブルーを感じ取っていた。さらに、「この濃い黄色の太陽が絵に合っている」というC子の意見に「濃いつて重要な」と問い返すと、他の子供たちは、「重要だよ」と声をそろえて答える。青と橙の補色の関係を直感で捉えている。

このように、友達のことを聞き合うことで、見えてくるつもりでも、見落としていたことに気付いたり、思わぬ発見に心躍らせたりしながら作品のテーマに迫っていったのだ。A先生の発問や問い返し工夫により、様々な思いや考えが引き出され、子供たちのイメージを広げる力を、伸ばすことができたのである。

鑑賞の授業では、感性を働かせ、新しい価値を生み出す創造性を培いたい。



～子供たちの未来のために～

ユネスコスクールの取組

▲「未来へつなごう 常南の心」～自然薯で町興しプロジェクト～（常磐南小）

文部科学省および日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールをESDの推進拠点と位置づけている。ユネスコスクールは、ユネスコ憲章に示された理想を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校である。現在、世界一八〇の国・地域で九六〇〇校以上が参加しており、岡崎市立の小中学校では、十校が加盟している。（他に一校申請中）

十一月に、名古屋市内にて「持続可能な開発のための教育（ESD）ユネスコ会議」が開かれる。また、同時期にユネスコスクール世界大会が岡山で開催される。ここでは、ユネスコスクールにおけるESDの実践研究成果を総括するとともに、今後の新たな展望について議論される。

ユネスコスクールでは、「知ることを学ぶ」「試すことを学ぶ」「人間として生きることを学ぶ」「共に生きることを学ぶ」を二十一世紀の学習の四本柱として掲げている。質の高い教育のための独創的なアプローチを試す場とし、それを実現化する活動を行っている。また、そのグローバルなネットワークを活用して、世界中の学校と交流し、生徒や教師で情報や体験を分かち合う。そして、地球規模の諸問題に、若者が関わっていくことができるような、新しい教育の内容や手法の開発、発展を目指している。

岡崎市の加盟校では、それぞれの地域や子供の実態に合わせて、学校独自のESDに取り組んでいる。常磐南小学校では、地域を思いやる心が、国を愛する心や人類愛を抱くことにつながっていくと考え、研究を行っている。過疎化を自分たちの問題として捉え、町の存続のために「自然薯」で町興しをしようという計画し、取組んでいる姿はまさにESDの目指す子供像である。また、男川小学校では、ESDの視点に立った教科学習を中心に授業研究を進め、その成果を世界大会で発表する。

これらの研究が、本当の成果として出るのは、未来である。子供たちの将来を見据えて、今、各学校が努力を続けている。

..... その他関連する教育

男川小

ESDの視点に立つ教科学習の展開

— 相手意識をもって関わり合い、思考・判断・表現できる子どもの育成 —

あっ、さなぎの背中が割れて、チョウが頭から出てきた。生き物ってすごい。…自分が育てて調べた昆虫と友達の昆虫では、生きる環境によって、体のつくり、生活の仕方がそれぞれ違うことに気づいたよ。（3年児童）



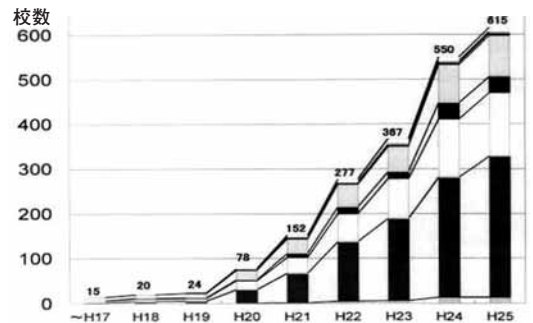
▲ モンシロチョウの羽化の瞬間を観察

H26.11.8

ユネスコスクール世界大会（岡山大会）にて、ESD 大賞小学校賞を受賞。ESD 優良実践事例校として発表。



▲ ユネスコスクールに掲げられるプレート



日本のユネスコスクール加盟校の推移

環境教育

新香山中

環境を見つめ、考え、働きかける生徒の育成



▲ 生物域マップ作りのための調査活動

六ツ美中部小

明るい未来をひらく、六ツ美中部の子の育成
—環境学習を基盤にしたESDの推進—



▲ 水路に生息する生き物調査

形埜小

ふるさと形埜に根ざしたESDの実践



▲ 乙川にやさしい廃油石鹸作り

国際理解教育 常磐中

世界とのつながりを求め、
未来へ行動する生徒の育成



▲ 留学生との東京班別研修



世界遺産や 地域の文化財等に関する教育

細川小

受けつごう！広めよう！細川の伝統芸能



▲ 郷土芸能クラブによる御殿万歳

ESDにより育みたい力

- 持続可能な開発に関する価値観
- 体系的な思考力
- 代替案の思考力(批判力)
- データや情報の分析能力
- コミュニケーション能力
- リーダーシップの向上

竜南中

持続可能な地域社会の実現のために、自ら考え、行動することのできる生徒の育成



▲ 被災地でのトマト収穫ボランティア

梅園小

被災地交流を通して
「つながり」を大切にする子どもを求めて



▲ 被災地に届ける「梅錦玉かん」作り

城南小

ともに高めあい、未来を拓く子どもの育成
—自己有用感を高めるESDの実践を通して—



▲ キャリア教育「城南CITYカーニバル」校内通貨の交換



● 教育最新情報

◆ 全国学力・学習状況調査
四月に行われた全国学力・
学習状況調査の岡崎市の結果
を分析した。

1 調査分析概要

(1) 全体の様子

岡崎市内の小中学校はともに、国語、算数・数学の「知識」「活用」に関する問題において、全国及び県の平均正答率を上回っている。

小学校においては、算数の「活用」に関する問題が、「よくできている」状況である。

中学校においては、国語の「活用」、数学の「知識」及び「活用」に関する問題で「たいへんよくできている」状況であり、特に数学は、非常に高いレベルにある。

(2) 小中学校別各教科「知識」「活用」に関する問題の様子(下表)

(3) 岡崎市教育委員会の指導改善等の取組

① 国語や算数・数学における岡崎市の児童生徒の学力と、学習環境と学力との相関関係

を詳細に分析し、学校での授業や家庭での生活習慣等の改善すべき内容を把握する。

② ①の分析結果を受け、その



内容を教育委員会が各学校へ伝え、改善状況を確認したり、必要に応じて指導したりする。
③ 各学校において行っている「教育診断アンケート(学校評価)」を利用して、学校や教員が自己評価を行い、日々の授業の成果と課題を明らかにし、新たな授業改善の具体的な対策を立て、早急に取り組みよう指示する。
④ 教育委員会と学校は、家庭や地域と連携をとりながら、

子供たちの生活習慣や学習環境が学力に反映することを周知し、改善を図る取組を行い、総合的な学力の向上に努めていく。
④ 留意点
① この調査で測定した学力は、特定の一部分である。
② 学校では、成果と課題を把握し、授業改善に努める。
③ 家庭に向けては、得意なこと・不得意なことを知り、生活習慣の充実を図っていただく

《小学校6年生》

科	主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
国語	できている ・ 故事成語の意味と使い方を理解する力に優れている。 ・ 漢字を正しく書く力に優れている。 ・ 新聞の投稿を読み、表現の仕方を捉えることがやや弱い。 ・ 情景描写を正しく理解し、その効果を捉えることのできない児童が多い。	できている ・ 二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉える力に優れている。 ・ 分かったことや疑問に思ったことを整理して書くことがやや弱い。 ・ 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることのできない児童が多い。
算数	できている ・ 作図に用いられる図形の約束や性質を理解する力に優れている。 ・ 減法と乗法の混合した整数の計算力がやや弱い。 ・ 立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係について理解できない児童が多い。	よくできている ・ 最大値に着目して、棒グラフの棒の中に表示することができない理由を記述する力に優れている。 ・ 示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述する力に優れている。 ・ 全体と部分の関係を示すために用いるグラフを選択する力がやや弱い。
学習状況	「朝食を毎日食べる」「自分で計画を立てて勉強する」「毎日、同じくらいの時刻に起きる、寝る」「家の人と学校での出来事について話をする」「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」「学校のきまりを守っている」など、規則正しい生活を送っていたり、自尊意識や規範意識をもったりしている児童ほど、今回の調査で高い正答率を得ている。 平日、テレビゲームをする時間が4時間以上の児童の正答率は、1時間未満の児童に比べ、国語では12.5ポイント、算数では12.4ポイント低い。また、平日の携帯電話やスマートフォンの使用率が、4時間以上の児童の正答率は、30分未満の児童に比べ国語では11.4ポイント、算数では14.4ポイント低い。4ポイント低い。	

《中学校3年生》

科	主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
国語	よくできている ・ 歴史的仮名遣いを現代仮名遣い直して読む力に優れている。 ・ 書いた文章について意見を交流し、文章を書き直す力に優れている。 ・ 語句や文の使い方に注意して、伝えたい心情にふさわしい言葉に書き換える力に優れている。 ・ 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する力がやや弱い。	たいへんよくできている ・ 複数の資料から必要な情報を集める方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取る力に優れている。 ・ 比喩や反復などの表現の技法について理解する力が優れている。 ・ 文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり趣旨を捉える力に優れている。
数学	たいへんよくできている ・ 文字を用いて数量の関係や法則などを式に表現したり式の意味を読み取ったりする力に優れている。 ・ 指数を含む正の数と負の数を計算する力に優れている。 ・ ヒストグラムにおいて、中央値の意味を理解する力に優れている。 ・ 一次関数について、表、式、グラフを相互に関連付ける力がやや弱い。	たいへんよくできている ・ 与えられた説明の筋道を読み取り、式を適切に変形することで、その説明を完成する力が優れている。 ・ 事象を理想化・単純化し、その結果を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明する力に優れている。 ・ 図形の性質を、構想を立てて証明する力がやや弱い。
学習状況	生活習慣が確立し、規範意識のある生徒ほど、調査で高い正答率を得ている。具体的には、「朝食を毎日食べる」生徒の正答率は、「食べない」生徒に比べ、国語では、7.8ポイント、数学では15.1ポイント高い。また、「毎日同じ時刻に寝る」「家で、自分で計画を立てて勉強する」等も傾向は同様である。「学校の規則を守る」生徒の正答率は、「守らない」と回答した生徒より、国語で15.6ポイント、数学では27.1ポイント高い。 平日の携帯電話やスマートフォンの使用率が、4時間以上の生徒の正答率は、30分未満の生徒に比べ、国語では9.7ポイント低く、数学では16.1ポイント低い。	

など、児童生徒が学習に意欲をもつて取組める励ましや環境づくりをお願いする。
◆ 岡崎市教育研究論文募集
岡崎市教育研究論文を次のとおり募集する。

【趣旨】

岡崎市立幼稚園、小・中学校教職員の日頃の教育実践及び教育研究の成果を広く募り、教職員の研修と資質向上及び学校教育の健全な発展を図るとともにその努力を顕彰する。

【部門】

- ① 個人研究の部(第一部門)
- ② 共同研究の部(第二部門)

【論文の体裁】

- ① 字数 一八二〇〇字以内(資料も本文範囲内に入れる。)
- ② 用紙・様式 A4用紙

四十文字×三十五行

十三枚以内(余白天地左右二十ミリ以上 文字は十二ポイント以上)

余白への資料添付は禁止

【留意事項】

- ・ 体裁が違うものは審査の対象外となるので注意する。
- ・ 未発表のものであること(ただし、継続実践研究は可)
- ・ 添付資料は、判読しにくいほど縮小しない。
- ・ 個人に関する情報は論文中に掲載する場合は、個人が識別されないよう留意する。

【提出期限】

平成二十六年十一月二十六日(水)

◆岡崎市教育委員会委員
 平成二十六年十月一日付け
 で、岡崎市教育委員会委員が
 次のようになった。

- 委員長 小出 義信
- 委員長職務代理者 福應 謙一
- 委員 櫻井 敬子
- 委員 土屋 武志
- 委員(教育長) 高橋 淳

●ハートピアだより

秋の一日に

ハートピア岡崎でも日に日に秋が深まっていくのを感じることが出来る季節となりました。通所生が運動する公園へ行く途中、遠くに見える山々が澄み切った青空に映える情景を目にすることができ、子供ともども、すがすがしさを感ずる日々を送っています。

ハートピア岡崎に通所する子供たちも、二十名程になり、とてもにぎやかになってきました。今年は例年と比べて、女子の通所生が多く、全体の六割を超えています。また、通所生のほぼ半分が中学生三年生です。秋を迎え、中学三年生の生徒にとっては、自分の進路を考えなければならぬ時期になりました。

ハートピア岡崎では、「ひまわりタイム」と名付け、中学三年生の生徒だけが一つの部屋に集まって、一緒に学習をすることを計画しています。お互いに刺激し合い、緊張感を



自分で決めて、自分がやる

もって集中して考えるという習慣を身に付けること。そして、同学年の男女と一緒に過ごす経験をすることで、来春からの新しい学校生活に適應できる一助となればと考えています。子供たち一人一人の将来の夢の実現のために、実りあるひとときにしていきたいものです。

今秋は、所外の活動として、少年自然の家でのディキャンプ、東山動物園への社会見学を計画しています。普段、過ごしている部屋の仲間とは異なる者同士で班編成をして活動する予定です。新たな友だちとの出会いや関わり合いを通して、自分の役割を果たすことの大切さを学び、人とのつながりを実感してほしいと思います。

紅葉も落葉することで冬芽が形成され、やがて春の芽吹きが訪れます。通所している

●表彰

子供たちが、新たな芽吹きをする春を楽しみに、充実した毎日になるよう支援をしていきたいと考えています。

◆第35回愛知県ジュニアオリピック陸上競技大会

- 女子B一〇〇MH 山本 遼
- 優勝 竜南中
- 女子B砲丸投 高井 萌香
- 優勝 岩津中
- 女子C八〇〇M 稲葉 朱音
- 優勝 竜海中
- 女子A一〇〇M 山本 里菜
- 二位 六ツ美北中
- 女子A三〇〇〇M 宇野 佑紀
- 二位 常磐中
- 女子B砲丸投げ 鳥居 佑南
- 二位 六ツ美中
- 女子A走高跳び 弓場 真依
- 三位 六ツ美中
- 女子C三〇〇〇M 鈴木 純菜
- 三位 竜海中
- 女子C走幅跳 小船妃那子
- 三位 岩津中
- 女子A砲丸投 近藤 沙南
- 三位 竜海中
- 男子C一〇〇MH 岩堀 剛己
- 二位 新香山中
- 男子A一〇〇MH 河合 辰貴
- 三位 六ツ美中
- 男子C一〇〇MH 土屋 翔栄
- 三位 六ツ美中
- 男子C一五〇〇M 永井 翔真
- 三位 矢作北中

◆JOCジュニアオリピック第28回全国都道府県対抗中学バレーボール大会

- 愛知県代表選手最終選考大会(県選抜選手)
- 男子優秀選手賞 有村 耕亮
- 竜海中 佐々木 潤
- 矢作中 仲濱 陽介
- 三瓶ひでき
- 平岩 佑基
- 荒井 寛太
- 女子優秀選手賞 中川 美柚
- 南中 高間 来瞳
- 常磐中 時田 咲希
- 矢作中 坂本 歩美
- 六ツ美中

- 第2回近代三種日本選手権大会 in 千葉 兼 第9回ジュニアオリピックカップ
- 近代三種 繁原ひなの
- 六位 葵中
- 愛知ジュニアサマーテニス トーナメント
- 十六才男子シングルス 大空
- 二位 矢作中
- 武石
- 大空
- 第58回愛知県統計グラフコンクール
- 第一部 金賞 児嶋 夢架
- 大樹寺小二年 江本 裕
- 矢作東小二年 佐野 文香
- 広幡小四年 仲野 莉瑠
- 井田小四年 六ツ美西部小四年
- 筒井 咲希
- 白山 未珠
- 第三部 金賞 渡邊 一甲
- 三島小六年 高嶽 真菜
- 三島小五年 成田ひより
- 竜谷小六年 渡我部はるか
- 竜美丘小五年 鈴木 麻尋
- 第四部 金賞
- 竜海中一年

- 第81回NHK全国学校音楽コンクール
- 全国大会 優良賞 根石小
- 東海北陸ブロック大会 金賞 根石小
- 第57回中部日本吹奏楽コンクール
- 大編成の部 竜海中
- 銅賞
- 第67回中部合唱コンクール(全国大会出場)
- 同声部門 六ツ美北中
- 金賞
- CBCこども音楽コンクール(中部日本決勝大会出場)
- 声楽部門 梅園小
- 優秀賞 根石小
- 矢作東小
- 器楽部門 優秀賞 城北中(重奏・合奏)
- 福岡中(重奏・合奏)
- 竜海中(重奏)
- 北中(管楽合奏)

- 城北中三年 石川 純子
- パソコン統計グラフの部 金賞
- 河合中三年 平山 真帆
- 稲垣 萌
- 近藤 隼光
- 柴田 岳志
- 鳥原 蓮花
- 滝口 慶明
- 井川千愛美
- 北中三年 北野 海斗
- 北中一年 酒井 一成
- 中道 瑛都
- 直井 優弥

・カ
ツ
ト
岩津小 鳥居光世

体力づくり (昭和56年)

写真提供：井田小学校

木造校舎を背景に、お椀をふせたようなブリッジが並ぶ。この写真は「太陽と土に親しみ自ら運動に励む子の育成」を主題に掲げ、九年間の体力づくり研究の集大成を発表したときの様子である。

トラック内には、マット代わりの芝生が植えられ、運動場で柔軟運動ができるようになっていた。毎日の練習によって、開脚前屈で胸がつくほど柔らかい体ができた。裸足で走ったことで、土踏まずの形成にもつながった。他にも、五十メートル砂場や丸太の一本橋などの運動施設があり、子供たちは楽しみながら体力づくりをし、大きな成果を挙げることができた。

現代では、子供たちの体力や運動能力の低下が問題となっている。外遊びを中心に活動やマラソン大会などの運動行事、部活動などでの運動の習慣化など、子供たちの体力向上のために、積極的に取り組んでいかなくてはならない。



自然環境、人権、国際理解など、さまざまな「持続可能な開発のための教育（ESD）」が、世界中の学校で取組まれている。

世界の子供たちが、他人や社会、自然との関係を意識し、「関わり」や「つながり」を尊重できる人間に育ってほしい。そして、美しい地球を守り続け、平和に暮らしてほしいと願う。

シ オ ス ア

すごく子供たちが楽しみにしている学校行事の一つに修学旅行がある。今、小学校は、修学旅行シーズン真っただ中。古都の歴史に触れ、友達との絆を深める。たった二日の旅であるが、学校を離れ、親元を離れ、いつもと違う空気の中で体験する時間は貴重だ。どの子にも一生の思い出となるようにしたい。

あちらこちらの家の垣根に、山茶花が咲く季節がやってきた。花言葉のように、ただひたむきに毎年花を咲かせてくれる。

決して華やかさや派手さはないが、北風が身に染み入るこの季節に見る人の心を温める。



* 東大物理学者が教える「考える力」の鍛え方 上田 正仁
ブックマン社 ￥1,300

心に残った一文
「考える」能力は、「頭の良さ」と同じではありません。

「考える力」というと「問題を解く力」を連想するが、筆者は、「問題を見つける力」の方がしばしば重要になると言う。重要な問題が隠されているであろうに、それが、漠然としてはっきり分からない。これは、学校現場の課題でもある。

日ごろから問題意識をもち、湧いてきた疑問を手立てに沿って、しだいに煮詰めていく。そのことにより創造的な発想が得られる。現役の物理学者らしくたとえ答えが出なくとも、諦めずに、最後まで考え抜くことの必要性を説いている本である。

- * 時間に追われないための小さい習慣 榊原 陽子 青志社 ￥1,200
 - * 「空気」で人を動かす 横山 信弘 フォレスト出版 ￥1,400
 - * 5日間で「自分の考え」をつくる本 齋藤 孝 PHP研究所 ￥1,300
- 藤川小 天野 良広